

令和2年度決算に基づく 特別会計・企業会計

特別会計の概要

特別会計(11会計)の決算額を合計すると、歳入が305億218万5千円で前年度と比べて25億7,568万5千円(8.5%)の減少となり、歳出が299億2,392万2千円で前年度と比べて27億7,847万2千円(9.3%)の減少となりました。

会計名	歳入(A)	歳出(B)	差引額(A－B)
国民健康保険(事業勘定)	137億1,951万9千円	137億1,280万9千円	671万円
国民健康保険(直診勘定)	6,029万8千円	5,979万7千円	50万1千円
古河福祉の森診療所	1億3,987万3千円	1億3,897万3千円	90万円
後期高齢者医療	16億1,634万1千円	16億1,593万3千円	40万8千円
介護保険(保険事業勘定)	108億5,702万2千円	105億8,993万2千円	2億6,709万円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,184万9千円	1,159万8千円	25万1千円
農業集落排水事業	9億3,696万9千円	9億1,032万8千円	2,664万1千円
ゴルフ場事業	6,402万9千円	6,025万円	377万9千円
古河駅東部土地区画整理事業	16億493万2千円	15億3,941万2千円	6,552万円
公共用地先行取得	5,702万8千円	5,702万8千円	0円
仁連地区新産業用地開発事業	14億3,432万5千円	12億2,786万2千円	2億646万3千円
合計	305億218万5千円	299億2,392万2千円	5億7,826万3千円

企業会計の概要

上下水道事業は法律で「地方公営企業」と位置付けされており、事業に必要な経費は、原則として水道料金や下水道使用料などの収入で賄う「独立採算の原則」に基づき運営されています。

会計名	収支(消費税込)	収入(A)	支出(B)	差引額(A－B)
水道事業	収益的	24億1,736万1千円	21億8,298万2千円	2億3,437万9千円
	資本的	9億9,276万円	18億7,089万4千円	△8億7,813万4千円
下水道事業	収益的	32億7,382万3千円	32億2,586万3千円	4,796万円
	資本的	8億4,819万3千円	16億8,797万3千円	△8億3,978万円

【問】水道課(三和浄水場)℡76-3780
 ◎下水道課℡76-1511

事業評価を実施しました

令和2年度に実施した市の事業を対象に事業評価を実施しました。事業評価は、事業の目的や効果の達成状況を基に指標を設定して評価を行ったものです。

評価結果は、市ホームページおよび右記の市内各施設で閲覧できます。

【問】総企画課℡92-3111

事業評価書を閲覧できる施設

古河地区：㊦市民総合窓口室、古河東公民館、中田公民館、はなももプラザ、いちょうプラザ
総和地区：㊦企画課、ユ－センター総和、とねミドリ館
三和地区：㊦市民総合窓口室、さん燦SUN館、コスモスプラザ(庁舎3階)

令和2年度決算に基づき算定した 財政健全化判断比率

実質赤字比率

一般会計等の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです

連結実質赤字比率

全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです

将来負担比率

一般会計等が抱える実質的な負債の残額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです

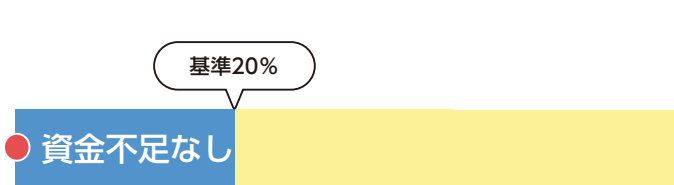
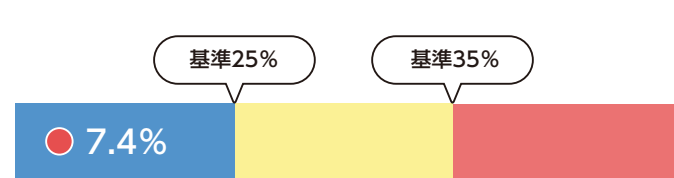
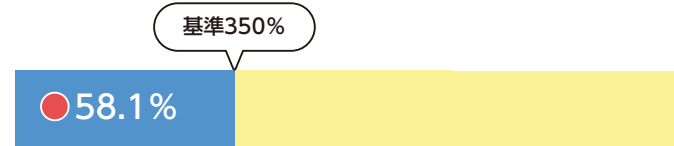
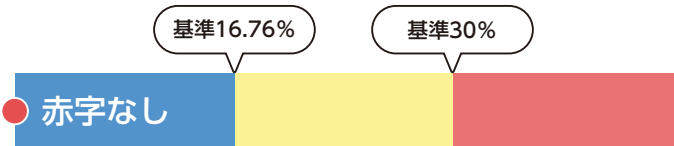
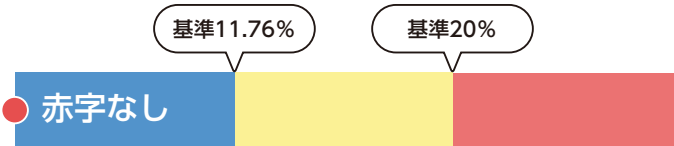
実質公債費比率

一般会計等の実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです

資金不足比率

各公営企業会計の資金不足額が、料金収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです

← 財政健全 財政悪化 →

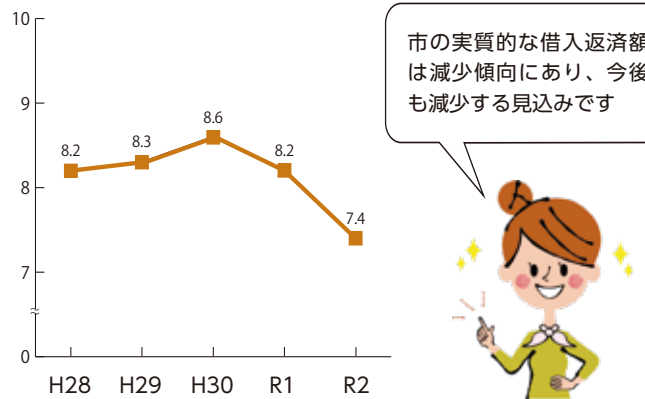


● 市の現状値 ■ 健全 ■ 早期健全化団体 ■ 財政再生団体

【令和2年度決算に基づく現状値】

市の財政状況を表す現状値は、全て国の基準で「健全」とされる範囲内です。今後も、将来にわたって持続可能な財政運営を図っていきます。

▶実質公債費比率



▶将来負担比率

